

2010 年 7 月 12 日

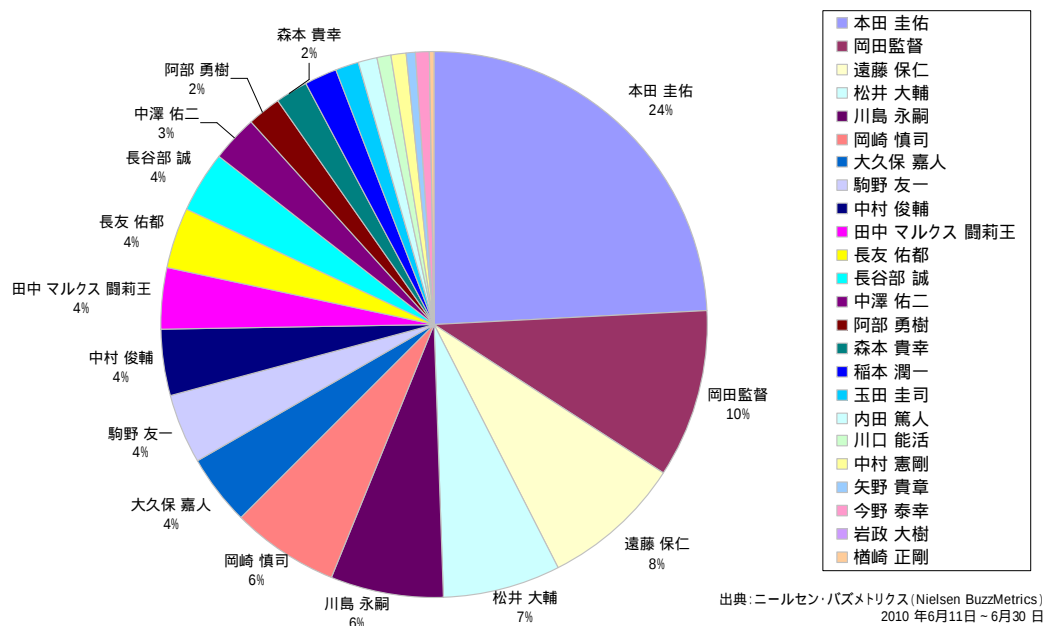
ネットレイティングス株式会社

ワールドカップ 激闘日本代表 インターネット上の口コミも大きな盛り上がり ～ 大活躍の本田選手に話題が集中 ～

ネットレイティングス株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:千葉尚志)は、ニールセン・オンライン (NielsenOnline) が提供するソーシャルメディアリスニングサービス「BuzzMetrics[®](バズメトリクス)」による 2010 年ワールドカップ期間中(2010 年 6 月 11 日～6 月 30 日)の日本代表監督、および、選手 23 人の CGM()上における話題の量を調査、発表しました。

それによると、日本代表が奮闘していたワールドカップ期間中、最も話題となっていた日本代表選手は、4 試合中 2 得点 1 アシストの大活躍をした本田圭佑選手、次いで、岡田武史監督、デンマーク戦で見事なフリーキックを決めた遠藤保仁選手の順となっています。本田圭佑選手に関する話題は日本代表監督、および、選手 23 人に関する全話題量の 24%を占め、次いで岡田武史監督の 10%、遠藤保仁選手の 8%となっていました。(図表1)

図表1 日本代表監督 / 選手のShare of Voice
(2010/06/11 - 2010/06/30)



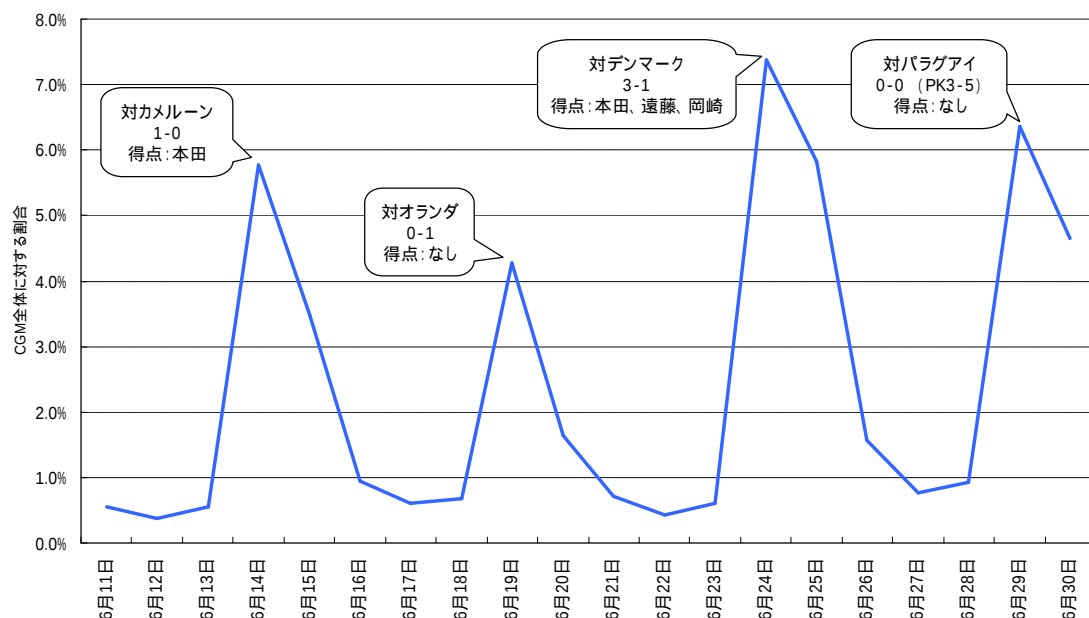
弊社が日本代表のワールドカップ初戦直前に発表したリリース「ワールドカップ開幕直前の日本代表に

関する話題量調査」(http://csp.netratings.co.jp/nnr/PDF/Newsrelease06142010_J.pdf)と今回の結果を比較すると、松井大輔選手、川島永嗣選手、岡崎慎司選手、大久保嘉人選手ら試合で活躍していた選手の話題が増加し、開幕前に期待されていた中村俊輔選手や森本貴幸選手は、出場機会に恵まれず CGM 上で話題になることは少ない結果になりました。また、相手のエースを抑えていた長友佑都選手はテレビなどのメディアでは取り上げられていたものの、CGM 上では大きな話題になることはありませんでした。

次に、話題の盛り上がりトレンドをみると、試合前後に大きな盛り上がりを見せていることがわかります。最も口コミが増加したのは、グループリーグ突破を決めた対デンマーク戦で CGM 上の口コミ全体の 7% が日本代表に関する話題となり、次いで惜敗した対パラグアイ戦がつづく結果となりました。(図表 2)

CGM 上でも最終 2 戦に特に注目が集まり、代表の活躍に一喜一憂した様子が窺えます。また日本が勝利した試合のほうが敗北した試合に比べて、口コミが増加しており、勝利の喜びを広く表現したい、多くの人と共有したいという気持ちも窺い知ることができます。

図表 2 ワールドカップ期間中の日本代表の話題トレンド



出典: ニールセン・バズメトリクス (Nielsen BuzzMetrics) 2010 年6月11日 - 6月30 日

最後に、試合ごとに話題になった選手をみると(図表 3)、本田圭佑選手は常に代表の中で注目を集めていました。特に得点を決めたカメルーン戦、デンマーク戦では代表選手に対する全口コミの 30% 以上を占めています。初戦のカメルーン戦では本田圭佑選手のゴールをアシストした松井大輔選手が 2 番目のシェアを占め、次いで、岡田武史監督、ゴールキーパーの川島永嗣選手と続きました。2 戦目の

オランダ戦は惜しくも敗れましたが、惜しいシュートを放った岡崎慎司選手や、何度もピンチを救った川島永嗣選手を話題とした口コミが多く、途中出場した中村俊輔選手の話題も増加しています。デンマーク戦では、1ゴール1アシストの大活躍だった本田圭佑選手が再度30%以上のシェアを獲得。得点を決めた遠藤保仁選手、岡崎慎司選手が続きます。決勝トーナメント初戦の巴拉グアイ戦では、シェア1位の本田圭佑選手に次いで、PKを外してしまった駒野友一選手への話題が増加しました。

図表3. 試合別話題シェアTop10

	カメルーン戦 2010/6/14	オランダ戦 2010/6/19	デンマーク戦 2010/6/24	巴拉グアイ戦 2010/6/29
1	本田 圭佑 33.6%	本田 圭佑 11.4%	本田 圭佑 31.7%	本田 圭佑 15.6%
2	松井 大輔 12.2%	岡崎 慎司 9.6%	遠藤 保仁 18.6%	駒野 友一 15.0%
3	岡田監督 8.3%	川島 永嗣 9.1%	岡崎 慎司 12.0%	岡田監督 11.3%
4	川島 永嗣 6.0%	大久保 嘉人 9.1%	岡田監督 7.4%	川島 永嗣 8.6%
5	大久保 嘉人 5.1%	中村 俊輔 9.0%	川島 永嗣 5.9%	松井 大輔 6.1%
6	長谷部 誠 4.2%	松井 大輔 8.3%	松井 大輔 3.8%	遠藤 保仁 5.8%
7	田中 マルクス 闘莉王 3.5%	田中 マルクス 闘莉王 6.2%	大久保 嘉人 2.7%	長谷部 誠 5.6%
8	長友 佑都 3.5%	岡田監督 6.1%	長谷部 誠 2.6%	田中 マルクス 闘莉王 3.8%
9	遠藤 保仁 3.3%	長友 佑都 5.7%	中澤 佑二 2.3%	大久保 嘉人 3.7%
10	中村 俊輔 3.1%	玉田 圭司 3.7%	長友 佑都 2.3%	長友 佑都 3.5%

シェア30%以上

シェア10%以上

出典: ニールセン・バズメトリクス (Nielsen BuzzMetrics) 2010 年6月11日～6月30 日

ワールドカップ期間中は、日本代表の躍進がきっかけとなり、開幕直前までの平穏な様子とは一変し、各選手、チームのパフォーマンスに比例する形で口コミも大きな盛り上がりを見せていました。日本代表は残念ながら目標に掲げていたベスト4を実現することはできませんでしたが、日本中に大きな感動と、ポジティブな話題を提供した素晴らしい大会になったのではないのでしょうか。

CGM にはブログ、および、掲示板を含む。ツイッターは同サービスの日本語検索の不具合による情報収集量低下のため今回は対象外とした。

【ネットレイティングス株式会社 会社概要】

ネットレイティングスはニールセン・カンパニー傘下の合併会社として1999年5月に設立されました。インターネット視聴率情報 Nielsen NetRatings NetView の他、オンライン広告統計 AdRelevance と AdRelevance EXpenditure 、アクセス解析サービスSiteCensus、携帯サイトのアクセス解析サービス SiteCensus@Mobile、モバイル利用動向調査KeitaiView、ソーシャルメディアリスニングサービス BuzzMetricsなどの製品サービスと、それを基にしたカスタマイズデータ作成、各種リサーチと分析を通じて顧客のインターネットビジネスにおける重要な意思決定に貢献しています。その製品とサービスの信頼性と精度はインターネット・サイト運営企業、E コマース企業、広告代理店、広告主より高い評価を得ています。ネットレイティングスのサービス概要及び会社概要は、<http://www.netratings.co.jp/> でご覧になれます。



ニールセン・カンパニーについて

ニールセン・カンパニーは世界最大の情報・メディア企業で、マーケティング及びコンシューマー情報、テレビ等のメディア情報、オンライン情報、モバイル情報を提供しています。また、トレードショーの開催や業界紙を出版しており、各分野でリーダー的地位を確立しています。アメリカ・ニューヨークの本社を拠点とし、世界100カ国以上でビジネスを展開しています。詳細は、ホームページ(www.nielsen.com)をご覧ください。

会社名:ネットレイティングス株式会社 英文社名:NetRatings Japan Inc.

本社所在地: 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-25-18 渋谷ガーデンフロント

資本金: 4億346万円 設立: 1999年5月

代表者: 代表取締役会長兼CEO チャールズ・バックウォルター

代表取締役社長兼COO 千葉 尚志(ちば たかし)

主要株主:The Nielsen Company (U.S.A)、 トランスコスモス株式会社、株式会社電通

#

本件に関するお問い合わせ先:

ネットレイティングス PR 事務局

電話: 03-5408-1547

Mail: NetRatings@rd-j.com